

道北、道央および道南の土壤凍結のない地帯で放牧に最適な

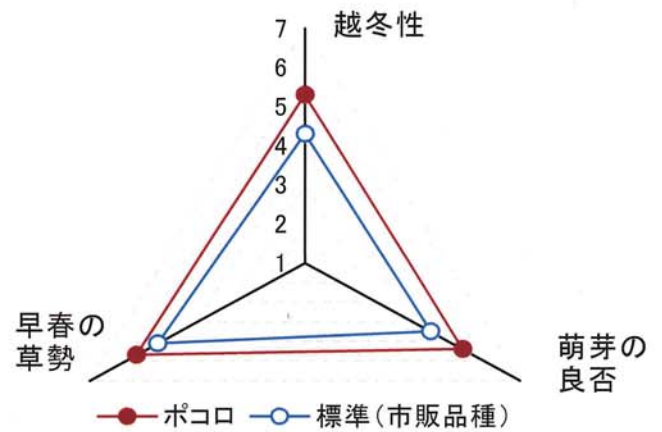
ペレニアルライグラス **ポコロ** 晩生品種

ペレニアルライグラスは、栄養価、嗜好性および再生力が優れ、季節生産性が平準で、北海道北部、中央部および南部（道北、道央および道南）の土壤凍結のない地帯での集約放牧に最も適した草種です。

※「ポコロ」の特徴

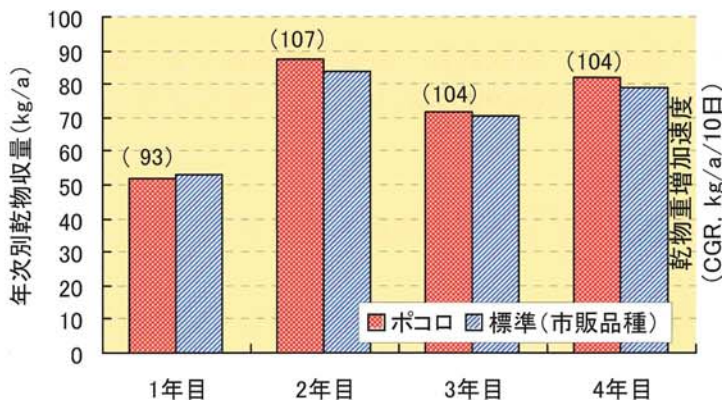


○「ポコロ」は越冬性と早春の生育が優れています。



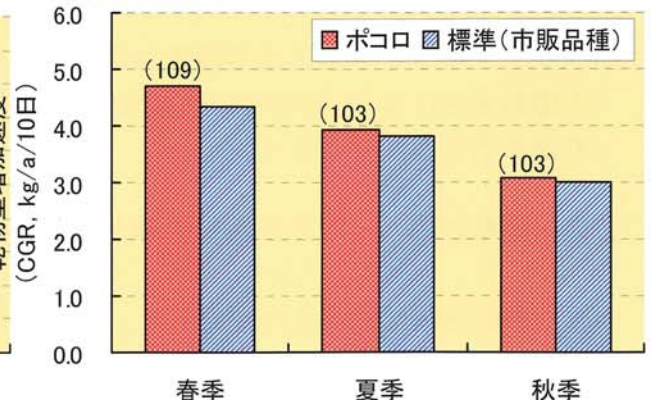
「ポコロ」の越冬性と春の生育。
調査基準：極不良1～極良9。
3場所（浜頓別、滝川、札幌）・3か年（2～4年目）の平均値。

○「ポコロ」は多収で持続性が優れています。



「ポコロ」の乾物収量の年次推移。
3場所（浜頓別、滝川、札幌）の平均値。
括弧内は標準(市販品種)比。

○「ポコロ」は季節生産性、とくに春の生産性が良好です。

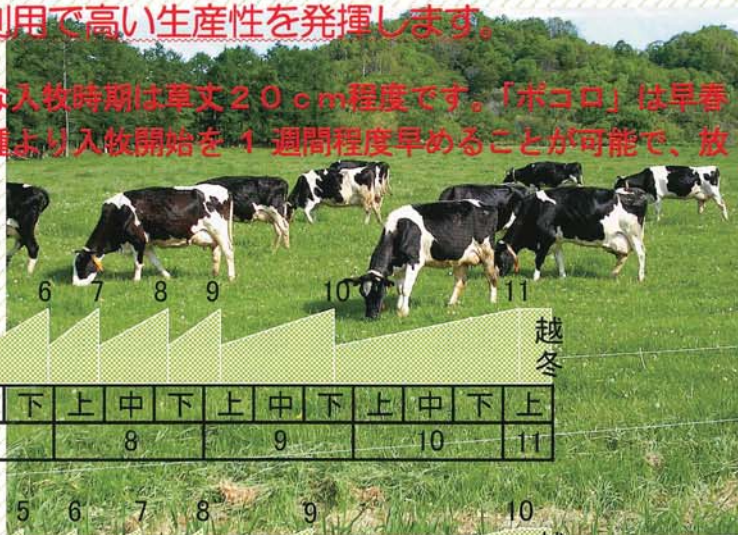


「ポコロ」の季節生産性(季節別の乾物重増加速度(CGR))。
春季：萌芽～6月、夏季：7～8月、秋季：9月～最終番草。
3場所（浜頓別、滝川、札幌）・3か年（2～4年目）の平均値。
図中の括弧内は標準(市販品種)比。

※「ポコロ」の特徴を生かした栽培利用法

～ とくに放牧（集約放牧）利用で高い生産性を発揮します。

○集約放牧では、年間を通して、適切な入牧時期は草丈20cm程度です。「ポコロ」は早春の生育が良好であるため、従来の品種より入牧開始を1週間程度早めることが可能で、放牧期間の延長が期待できます。



播種後2年目以降の集約放牧スケジュールのモデル

「ポコロ」の出穂始と出穂期（浜頓別）.

品種	早晚性	出穂始	出穂期
ポコロ	晩生	6月15日	6月20日
ファントム	中生	6月12日	6月17日
フレンド	晩生	6月19日	6月25日



「ポコロ」の出穂始期は「フレンド」より4～5日早い。

○集約放牧利用では、9～10月は再生草量の低下がみられるので、兼用利用牧区（1番草採草・再生草放牧）を設け、1番草をサイレージ調製し、秋にその併給を行うことによって、高い生乳生産が維持できます。

なお、兼用利用する場合、1番草の刈取り適期は、穂ばらみ期～出穂期です。

○ペレニアルライグラスは播種後の初期生育が良好で、簡易更新（追播）が可能です。低コストの簡易更新により、放牧地の不良植生を比較的容易に栄養価の高いペレニアルライグラスに置き換えることができます。

○通年採草利用（年間3回刈りが適当）による良質サイレージの生産も可能です。

○土壤凍結地帯は越冬条件が厳しく、冬枯れの影響が大きいため、栽培に適していません。

【育成機関】

お問い合わせ：

北海道立総合研究機構 上川農業試験場 天北支場
技術普及室

TEL 01634-2-2111

FAX 01634-2-4686